

「浦添ふ頭地区における民港の形状案」を 公表します。

令和3年3月26日に開催された那覇港管理組合構成団体調整会議において、「浦添ふ頭地区における民港の形状案」が合意されたので公表します。

(※詳細は次ページ以降に掲載)

1. 浦添ふ頭地区における民港の形状案
2. 浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方
3. 浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成方針等

令和3年3月31日

那覇港管理組合

浦添ふ頭地区における民港の形状案

※図中の赤線は既定計画 ※今後の波浪解析等を踏まえて、波除堤や突堤等が必要になる可能性がある。

R3. 3. 26 那覇港管理組合構成団体調整会議



浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方

令和3年3月26日

那覇港管理組合構成団体調整会議

- 浦添ふ頭と新港ふ頭の国内外海上輸送網及び流通加工等の物流施設の一体的利用とともに、那覇空港とのシーアンドエアも活かし、アジアへの多様な速度帯による重層的な航路サービスを全国・アジアの荷主に提供する、アジアの中継拠点港としての物流空間を創出する。
- 地域振興のための産業拠点として、浦添ふ頭と新港ふ頭の物流空間の一体的利用や中城湾港との連携により臨空・臨港型の産業等の導入を図る。
- 富裕層の長期滞在型観光の拠点となる世界水準の観光リゾート地を形成するため、浦添の自然環境を活かすとともに、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点を含み交流・賑わい空間を創出する。
- 空間配置に関し、交流・賑わい空間は、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点の形成、都市軸との連続性、交流・賑わい空間からの景観を考慮する。また、交流・賑わい空間と物流空間の間を繋ぎ、多様な機能の調和により新たな価値を創造する空間を配置する。物流空間は、それらの空間の配置に対応しつつ新港ふ頭との一体的利用による効率的な物流体系の構築を考慮し配置する。
- 県全体・背後地域における将来の産業戦略、中城湾港との機能分担、那覇港における課題及び需要や、両空間を繋ぐ空間の利用形態等の検討を踏まえ、物流及び交流・賑わい空間の規模及び配置を検討する。
- 人と自然が共生する良好な港湾環境の形成を図るため、自然的環境を保全する空間を配置する。

浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成方針等

民港の形状案の作成にあたっては、「浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方」に基づき、物流空間については那覇港管理組合が、交流・賑わい空間については浦添市が主体となって、「沖縄県SDGs推進方針」等を勘案しながら、それぞれの形状案を検討し、浦添ふ頭地区調整検討会議において議論・調整を行った。

物流及び交流・賑わい空間の形状案の作成方針等は以下のとおり。

1. 物流空間

- 新港ふ頭地区や那覇空港との連携も活かし、アジアへの多様な速度帯による重層的な航路サービスを提供する、アジアの中継拠点港としての物流空間を形成する。
- 将来の貨物量推計について、来沖観光客数と相関が強いと考えられる貨物品目や、那覇港と中城湾港との機能分担を考慮して行う。貨物量推計、企業ヒアリング、他港の事例等を踏まえて、必要な岸壁数及び物流用地の面積を推計する。
- 浦添ふ頭地区と新港ふ頭地区の国内外海上輸送網及び流通加工等の物流施設の一体的利用を図るため、両地区をつなぐ臨港道路を考慮した形状案とする。
- 地域振興のための産業拠点として、流通加工等を行う臨空・臨港型の産業等の導入を図るため、必要な物流用地を確保する。
- 交流・賑わい空間において浦添の自然環境を活かすとともに牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した空間形成を図ることも踏まえ、物流空間においてもイノーの埋立面積を縮小するとともに、物流空間を南側及び沖側へ配置する。

2. 交流・賑わい空間

- 埋立面積を可能な限り小さくし、海とイノーを活かした親水空間を設けるとともに牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点を含む交流・賑わい空間を創出する。
- 背後圏人口や企業ヒアリング、海外含む他港の事例等を踏まえて、ビーチ等の親水空間やマリナー等の施設規模を推計する。
- 背後地となる牧港補給地区跡地からの景観も含めて、海に沈む夕日を最大限に享受できる形状案とする。
- 浦添ふ頭地区と牧港補給地区跡地が連続性や一体感をもたらすよう、将来的な連結部分も視野に入れた形状案とする。
- アジア地域からの富裕層を獲得するため、ラグジュアリーホテル等を整備するための用地を確保する。